

# 近代日本文化研究 II

科目ナンバリング JLT-102  
必修 2単位

濱田 陽

## 1. 授業の概要(ねらい)

日本列島において十二支動物は、千数百年にわたって時間や方位の把握に用いられてきた。十二支の時空のシステムは数字の反復や積算ではなく、玄妙に変化する地球、太陽、月などの自然と生きものや人の関係として展開してきた。

列島に伝承された神話、物語、民俗、宗教などを考察し、個性あふれる十二支動物を導き手として、生きとし生けるものが織りなす日本文化の時空に分け入り、伝統文化と近代文化双方の知識を培いながら伝統の日本、近代日本、現代文明がはらむ課題を深く学ぶ。

## 2. 授業の到達目標

日本文化への多様な視座を養い、講義・教科書の内容をふまえて自身の感想を展開し、内容の深い考察をまとめる思考力、文章表現力を身につける。

## 3. 成績評価の方法および基準

授業参加、期末レポートにより総合評価 \*期末レポートは、第13回授業終了直後にテーマを発表予定

## 4. 教科書・参考文献

教科書

濱田陽 『日本十二支考 文化の時空を生きる』(2017年1月刊) 中央公論新社

\*授業、期末レポート作成に必須、秋期は本書の後半を中心に学ぶ。通年受講を前提とし、春学期の近代日本文化研究 I から引き続き使用する。

## 5. 準備学修の内容

・毎回の授業に欠かせない予習について、LMSオンラインと授業内でアナウンスしていく。

・一回の授業で平均15ページ分ほど進むことを目安とする(部分的に取り上げない箇所もあり、授業の進行状況に応じて告知する)。

## 6. その他履修上の注意事項

・LMSオンライン上で重要な情報はUPしていくため、対面授業の前後にLMSオンラインの方も確認する習慣をつけること。

・授業中に教科書中の着目すべき箇所を自分の判断でマークし、主体的に気づいたことや考えをメモするなど(教科書に書き込んでもポストイットなどを用いてもよい)、少しずつ理解を深めていって欲しい。

・「7.授業内容」には教科書各章が割り振られているが、章によって分量の差があるため、じっさいの授業進行はある程度前後することがある。

・半期の履修も可だが、通年受講が望ましい。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 第二部第五章 辰-龍 想う、自然の精霊  
激情を受けとめる/龍を失う/意味の方法
- 【第2回】 第二部第六章 巳-蛇 実をはかる生きた尺度  
大地、海、空/いのちと環境/生きた尺度
- 【第3回】 第二部第七章 午-馬 近い神の乗り物  
日本馬の魂/時空を凝縮する/愛する理由
- 【第4回】 第二部第八章 未-羊 遠いあこがれ  
羊の影/変換力をあこがれ/ひつじの謎
- 【第5回】 第二部第九章 申-猿 群れの誇り高い自由  
近い親しみの畏敬/誇り高い自由/古代人の創造力の新鮮
- 【第6回】 第二部第十章 酉-鶏 個の、恋するプライド  
勇敢な鶏の居るところ/たまご、ひよこ、恋するにわとり/神をも動かす声
- 【第7回】 第二部第十一章 戌-犬 伴侶力  
ともに渡り、ともに生き抜く/会いたい、会えない想いを超えるとき/いつの日か花を咲かそうよ
- 【第8回】 第二部第十二章 亥-猪 独りで出会う野生  
野生の猪に祈る/循環する亥/山の神としての猪
- 【第9回】 第三部 よみがえる時空と文化学  
第一章 十二支の潜在力
- 【第10回】 第三部第二章 世界の文化へー未来の十二支
- 【第11回】 第三部第三章 文化学への関心
- 【第12回】 第三部第四章 存在と超越性
- 【第13回】 第三部第五章 復活に気づく
- 【第14回】 講義のまとめ
- 【第15回】 期末レポートのテーマ発表・解説 \*LMSオンデマンド形式による授業、第13回(12月下旬)直後に実施予定